

## 「いろいろなストーブ」(コラム 博物館の昔のどうぐ【拡大版】)

### 読みもの・コラム

投稿者：:

Posted on : 2022-3-31 16:00:00

### (13) いろいろなストーブ

今回は「ストーブ」を取り上げます。時代と共に形や燃料が変遷する暖房器具はとても興味深く、ことぶき大学山部校の学生さんなどからの聞き取り調査もしたため、内容もりだくさんとなりました。いつもの紙面では書ききれないため拡大版としています。

このテーマに限らず、聞き取り調査は随時行っていますので、機会がありましたらぜひご協力ください。

**今月の収蔵物 番外編 ストーブ**

沢山収蔵されているストーブがどんな物なのか…温かいのか…いつ頃使っていたのか…気になる、色々な方(主にことぶき大生)に話を聞きました。そんなストーブについてのエピソードを紹介したいと思います。

**タコストーブ**  
汽車にあったよ！各車室にあって、乗車したら、まず温まってから席に座っていたよ。

**薪ストーブ**  
明治中期頃から使用され始めた。別名、ひょうたんストーブ、亀の子ストーブとも言われた。現代でも馴染みのあるストーブ

**だるまストーブ**  
学校でお弁当や牛乳を温めたよ。ストーブに近い子は真っ赤な顔をしていたよ

**やぐらこたつ**  
あったかくていつも布団に入ってた。でも、寝相が悪くて尿の中に足入れて火傷したな～

**ルンペンストーブ**  
どんな悪い石炭でも燃えるので良かったよ。工場とかでよく見かけたね。

**おがくずストーブ**  
沢山のおが屑を入れるけど、こぼれて汚くて、掃除が大変だっただろうな～

**石炭ストーブ**  
石炭ストーブは火力が強かったんだらうな！

**府炭式ストーブ**  
昭和3年に考案された鋳物製ストーブ。炊事専用の釜と湯沸かし器が取り付けられてる

皆さんの話を聞くと、子供の時の仕事は石炭運びや、小枝集めなど必ずやっていたようで、頭が下がります。それでも遊びに夢中になり、仕事を忘れて親に怒られて泣いてしまったことも…。日常的にストーブでは料理を煮炊きに利用し、天板の上ではスルメ・干し芋・ニンニク・練なども焼いたそうです。

私がとても興味を持ったのが「なまこ」を焼いたというエピソードです。初めて聞いた言葉に「えっ？」と思い、後で調べてみました。炭粉の乾燥する前のものを固めて焼くと一枚づつはがれ、それを食べるそうです。いづれ試してみたいと思います。漢字では「生粉」と書くそうです。

今回調べていて感じたのが、ストーブ自体の思い出より、ストーブにまつわる日常の思い出の方が沢山出てきた事。その当時の様子が思い出され、ほっこりした気持ちになりました。昔の道具にまつわるお話など教えて下さる方がいらっしゃいましたら、くまがら編集担当までご連絡ください。

ストーブ類は**テーマ5「北国の生活」**(2階)に展示されています(「ダルマストーブのみテーマ7「教育のあゆみ」に展示)。

この記事はくまげら通信 4 月号に掲載しました。